

# 糖尿病の 新しい診断基準

柏木厚典

滋賀医科大学附属病院 病院長

糖尿病の新しい診断基準が改定され、従来の血糖による診断基準に同列で、慢性の高血糖の指標としてHbA1cが糖尿病の診断に利用された。HbA1c (NGSP値) 6.5%以上が糖尿病の診断基準として使用されることになった。一方、HbA1c国際標準化の検討からHbA1c (NGSP相当値) = HbA1c (国際標準値) =  $1.019 \times \text{HbA1c (JDS値)} + 0.3\%$ の関係式が成立し、HbA1c (NGSP値)はHbA1c (JDS値) + 0.4%で推算された。すなわちHbA1c (国際標準値) 6.5%は、HbA1c (JDS値) 6.1%に一致する。このHbA1c (JDS値) 6.1%は、空腹時血糖値 126 mg/dL、75 g糖負荷試験2時間値 200 mg/dLに一致し、日本のデータでも網膜症の発症頻度が有意に増加するHbA1c (JDS値) に一致する。海外ではHbA1c値の2回連続測定で異常であれば糖尿病の診断が可能であるが、日本ではHbA1c (JDS値) 値の連続的異常測定のみでは糖尿病の診断はできないことに注意する。

## はじめに

糖尿病の新診断基準が11年ぶりに改定された。その最も大きな変更点は、慢性高血糖の指標として、HbA1cを血糖と同程度に重視した基準となった点である。成因分類に関しては、基本的に大きな変更はされていないが、1型、2型、その他特定の機序、疾患による糖尿病、妊娠糖尿病に分類された。1型糖尿病の分類は自己免疫性と特発性があるが、さらに劇症1型糖尿病と緩徐進行1型糖尿病が明確に取り上げられた。また、その他の特定の機序、疾患に分類される遺伝子異常による糖尿病が多数報告されるようになった。本章では、糖尿病の新診断基準とHbA1cの国際標準化の日本の対応について概説する。

## 糖尿病の新診断基準

糖尿病の診断は慢性高血糖によって行うが、これまでと同じく、糖尿病型は、①空腹時血糖値 (FPG)  $\geq 126$  mg/dL、または②75 g経口糖負荷試験 (OGTT) 2時間血糖値  $\geq 200$  mg/dL、あるいは③随時血糖値  $\geq 200$  mg/dLにて診断する。一方正常型は、FPG  $< 110$  mg/dL、かつOGTT2時間値  $< 140$  mg/dLにて診断する。境界型は、糖尿病型でも正常型でもないものと分類される。さらに今回の改訂では上記の血糖値基準に加えて、HbA1cをより積極的に診断基準に取り入れることとした。すなわち、④HbA1c (JDS値)  $\geq 6.1\%$ の場合 (HbA1c [国際標準値]  $\geq 6.5\%$ ) も糖尿病型と判定する。

日本の境界型は、糖尿病型に移行する率が高く、動脈硬化症の発症は正常型よりも高頻度である。HbA1c (JDS値) が5.6 ~ 6.0%の場合は、“糖尿病の疑いが否定できず”、

